
「新しい社会」 評価規準 【5年】

単元名	1. わたしたちの国土（オリエンテーション）			教科書のページ	上 p. 6～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月	学習指導要領の内容	(1) アイ

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) オリエンテーション			
・地球の写真や地球儀を見て、調べたいと思ったことを話し合ひましょう。 p. 6～7	1	①地球の写真や地球儀をもとに、気づいたことや調べたいと思ったことを発表する。 <気づいたこと> ・地球の中の日本は小さい。 ・日本は細長い。 ・日本の西には、広い大陸が続いているように見える。 ・この写真の裏側にある、大陸や海はどうなっているのかな。 <調べたいと思ったこと> ・世界の大陸や海洋はどうなっているのか。 ・日本のまわりにはどのような国があるのか。 ・人はどのあたりに住んでいるのか。 ・日本の国土に住む人たちは、どのような暮らしをしているのか。	[思判表]発言
		めあて 日本は、地球のどこにあり、人々のくらしは、どのようになっているのでしょうか。	

小単元名	1. 世界の中の国土			教科書の ページ	上 p. 8～15
配当時数	4 時間	活動時期	4 月	学習指導要 領の内容	(1) ア- (7) (ウ), イ - (7)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の 観点別 評価規準	知識・技能	- 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の様子を理解している。 - 調べたことを図表や文などにまとめ、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解している。
	思考・判断・表現	- 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、問いを見いだし、我が国の国土の様子について考え表現している。 - 我が国の国土の位置や形状、面積などの情報を総合して我が国の国土の特色を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に 取り組む態度	我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 世界の中の日本			
・つかむ 地球の様子や地図を見て話し合い、世界の中の日本について学習問題をつくりましょう。 p.8～9	1	①地球儀をながめて、疑問に思ったことを発言する。 ②p. 8「地球儀の見方・使い方」をもとに地球儀の使い方を学習する。 - 緯度、経度による位置の読み取り - 距離の測り方 - 自分の住む都道府県から見た、方位のとらえ方 - 地図と地球儀の違い ③p. 8～9 の地図や地球儀をもとに世界の大陸や海洋を確認する。 - 六つの大陸と三つの海洋の位置と名称。 ④地図や地球儀をもとに、日本の位置を確認し、世界の広がりとの関係について気づいたことや考えたことなどを発表し、それをもとに学習問題をつくる。 - 日本はユーラシア大陸の東にあつて、太平洋の西にある。 - 日本のほかにどのような国々があるのかな。	[思判表]ノート
		学習問題 世界から見た日本の国土は、どこにあり、どのように広がっているのでしょうか。	

		⑤学習計画を立てる。 ・世界の国々と日本 ・日本の国土の広がり ・日本の領土	
(2) 世界の国々と日本の位置		★他教科との関連:外国語	
・調べる 世界の主な国々と日本の位置や国旗について調べてみましょう。 p.10～11	1	①p. 10～11 の地図をもとに、世界の国の場所や国旗、その国の様子、日本との位置関係などについて地図帳や地球儀で調べながら、線でつないだり、国名を空欄に書き入れたりする。 《作業1》 ・国名の入っている国は、線でつなぐ。 《作業2》 ・国名がないものは、地図帳や地球儀で国名を調べ、書き込む。 《作業3》 ・日本と同じ緯度や経度にある国を、地球儀や地図帳で調べる。 ②線で結んだり、書き込んだりした地図をもとに、気づいたことや思ったことを話し合う。 ・大陸だけでなく島にも国がある。 ・国旗は似ているものもあるが、それぞれ違っていて、その国の人々の歴史や願いが込められているものもある。	[知技]教科書への書き込み
(3) 多くの島からなる日本			
・調べる 日本の国土は、どのような特色があるのでしょうか。 p. 12～13	1	①p. 12～13 の地図や写真などから、日本の国の広がりや日本のまわりの国々を調べ、気づいたことを話し合う。 ・国土は、四つの大きな島と沖縄島や択捉島などの 6,800 以上の多くの島でできている。 ・長い海岸線をもつ。 ・日本の東西南北のはしは、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島で、南北約 3000 km の距離がある。 ・日本は、海をへだてて外国と接している。 ②国土の広がりについて、話し合う。 ・まわりを海に囲まれている島国。 ・多くの島が南北につらなる国。	[知技]ノート

(4)領土をめぐる問題			
・調べる 日本の領土のはんいは、どのようになっているのでしょうか。 p. 14	1/2	①p. 14～15 の地図や写真から、日本の領土・領海の範囲を確認する。 ・日本は、多くの島からなるため、領土よりも領海の方が広い。 ・西之島が誕生して領海が広がった。 ②p. 14～15 の地図や写真、本文から領土の範囲をめぐる問題について理解する。 ・北方領土は、日本固有の領土である。 ・竹島は、日本固有の領土であるが、韓国が不法に占領しているため、日本は抗議を続けている。 ・尖閣諸島は、日本固有の領土である。	[知技]ノート
(4)表にまとめる			
・まとめる 日本の国土の特色について、まとめてみましょう。 p. 15	1/2	①これまでに調べたことを、表にまとめることを通して、学習をふり返り、そこからわかる日本の国土の特色についてまとめる。 ・日本は、ユーラシア大陸の東、太平洋の西にある。 ・日本は、アメリカ合衆国やフランスなどと同じくらいの緯度にある。 ・日本は、大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦と隣り合っている。 ・日本は、海に囲まれ多くの島からなる。 ・広い領海をもっている。	[思判表]ノート [態度]記入された表

小単元名	2. 国土の地形の特色			教科書のページ	上 p. 16～21
配当時数	3 時間	活動時期	4 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の自然などの様子や地形に特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や地形に特色ある地域の人々の生活を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の国土の地形の概要を理解している。
	思考・判断・表現	・国土の地形などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え表現している。 ・我が国の位置や地形から、我が国の国土の自然環境の特色を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・我が国の国土の地形について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 空から国土をながめてみよう			
・つかむ 高い空から日本を見て、日本の地形について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.16～17	1	①p. 16～17 の写真をもとに日本の地形上の特色について気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・海岸が入り組んでいる。 ・山の上の方まで人が住んでいる土地もある。 ・山もあれば平らな土地もある。 ・空から見る様子には、場所によって違いがある。 ・国土の場所によってどのような特色があるのかな。	[思判表]ノート
		学習問題 国土の地形には、どのような特色があるのでしょうか。	
		②学習計画を立てる。 ・山地や平地など、国土の地形の様子や広がり。 ・川や湖の様子や広がり。	
(2) 国土のさまざまな地形			
・調べる 山地や平地の特色や広がりはどうなっているのでしょうか。 p. 18～19	1	①p. 19 の資料⑥の地図を読み取る活動を通して、国土の山地や平地について気づいたことを発表する。 ・山脈、高地、平野などさまざまな地形がある。 ②p. 18 の資料②をもとにさまざまな地形の種類と資料①, ③, ④の写真を関連づけ、その特	[知技]ノート

		徴を読み取る。 ・飛騨山脈は山が連なっている。 ・松本盆地のまわりには山が見える。 ・庄内平野には最上川が流れ、遠くに山が見える。 ③p. 19 の資料[5], [6], [7]をもとに、国土の地形の特色をまとめる。 ・山地や山脈とよばれる地形は、四つの島の主に中央にあるが、場所によっては海にぎりぎりまで迫っているようなところもある。 ・関東平野は広そうだが、そのほかの平野のなかには、海と山に挟まれて細長く見えるところもある。 ・火山も多い。 ・国土の4分の3は山地で、平地が少ない。	
(3) 日本の川や湖の特色			
・調べる 日本の川や湖は、どのような特色があるのでしょうか。 p. 20	1/2	①p. 20 資料[1], [2], [3]や地図帳を使い、児童にとって身近な河川の上流や下流（河口含む）、湖について確認する。 ・合流を繰り返し、大きな川になる。 ・河川の上流は山地で、下流になると平野を流れている。 ・山地や平地に湖が見られる。 ②p. 20 資料[3]と[5], [6]を関連づけ、日本の川と湖の特色をまとめる。 ・日本の川は、すごく急で短いということが、資料[5]のグラフからわかる。 ・日本でいちばん大きい湖は琵琶湖で、2番目に大きい霞ヶ浦の約4倍の大きさである。	[知技]ノート
(3) 白地図にまとめる			
・まとめる 国土の地形の特色について、まとめてみましょう。 p. 21	1/2	①p. 21 の白地図を完成させ、p. 19 の資料[6]や地図帳と併せて、特徴的な地形とその場所などを当てるクイズを出し合う。 <クイズの例> ・「日高山脈に水源があつて十勝平野を流れている川は何。」→「十勝川です」 ・「琵琶湖から流れ出ている川は何川で、なんという平野を流	[思判表]まとめの文章 [態度]白地図

		れている。」→「淀川で、大阪平野を流れています」 ②国土の地形の特色についての学習をふり返り、感想と自分の考えを文章に表現する。	
--	--	--	--

小単元名	3. 低い土地の暮らし			教科書のページ	上 p. 22～31
配当時間	5 時間	活動時期	5 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで低い土地の自然などの様子や低い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	・国土の地形などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活について考え表現している。 ・我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・低い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 堤防に囲まれた土地			
・つかむ 海津市の土地の様子や、人々の生活について考え、学習問題をつくりましょう。 p.22～23	1	①海津市の航空写真を見て、土地の様子を話し合う。 ・三つの大きな川に挟まれている土地です。そこは平らです。 ・畑か田んぼのようなものが見えるが何を育てているのだろうか。 ②土地の高さの地図の0 mよりも低いところに色をぬって海津市の土地の高さを調べる。 ・市の半分以上が0 mよりも低いけれど、ここに人が住めるのかな。 ・低い土地ならではの暮らしの工夫はあるのかな。 ③学習問題をつくる。 ・まわりに大きな川が三本も流れていて、洪水にならないのかな。	[思判表]ノート、発言
学習問題 大きな川に囲まれた海津市に住む人々の暮らしや産業には、どのようなくふうがあるのでしょうか。			
(2) 学習の進め方			
・学習問題をつくり、学習の進め方を確認しよう。 p. 24～25	1	①小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。	[思判表]ノート、発言

		②各学習過程には、「ふり返ろう」があることも確認する。 ・学習問題について、予想を立て、実際に見学したり、インターネットやガイドブック、写真や地図などで調査したりして、「低い土地に住む人々のくらしや産業」を調べる計画を立てる。 <調べること> ・水害からくらしを守るくふう ・低い土地での水を生かしたくらしや産業のくふう <調べ方> ・教科書を使って調べる。 ・教科書以外で調べる。(インターネット、パンフレット、市のホームページ、図書館、地図帳など) <まとめ方> ・調べてわかったこと、疑問に対する答えをノートにまとめる。 ・わかった事実をもとに、考えたことをノートに書き分ける。	
(3) 水害とたたかってきた人々			
・調べる 輪中に住む人々は、水害から生活をどのように守ってきたのでしょうか。 p. 26～27	1	①120 年ほど前の川の流れの図(資料[3])と、千本松原(資料[1])や、p. 22 の航空写真を比べて、昔の川の流れがどのように変化したのか、わかったことを話し合う。 ・昔は川が入り組んでいた。輪中がたくさんあった。 ・今の方が川がまっすぐになっている。 ②歴史民俗資料館の服部さんの話を読み、どのようにして川がまっすぐになり、輪中がまとまったのかを、話し合う。 ・江戸時代の治水工事で千本松原ができた。 ・明治時代になってから、デレーケが川の流れを分けることに成功した。 ③河川改修が成功した後は、完全に水害がなくなったのか、資料[5]を読み取ってわかったことを話し合う。 ・1900 年の三川分流工事以降は、大きな水害の発生件数は大幅	[知技]ノート

		に減った。 ・しかし、水害がゼロになったわけではない。 ・今でも水害に備えて水防演習をしたり、水防倉庫を備えたりするなど水害への準備をしている。	
(4) 豊かな水を生かした農業			
・調べる 輪中に住む人々は、豊かな水をどのように農業に生かしているのでしょうか。 p. 28～29	1	①農作業の様子を表す絵や写真（資料①）と、田の様子の変化を表す写真（資料④・⑤）を見くらべて、海津市の農業がどのように変わってきたのかを話し合う。 ・昔は、沼か池のような田で稲作を行っていたが、現在では、水たまりや水路のような部分はなくなり、普通の水田になっている。 ・海津市の主な農産物のグラフ（資料②）と、ビニールハウスでのトマト栽培の写真（資料③）、「農家の山田さんの話」を読み比べてわかったことを話し合う。 ・稲の生産が一番多い。 ・大豆、麦、野菜、果物など畑でつくるものも多くなっている。 ・大きな排水機場ができて、余計な水を輪中の外にくみ出しているからだ。 ②資料⑥用水路と排水路を見て、畑作に必要な水をどのように確保しているのか、わかったことを話し合う。 ・排水路は市内のいろいろなところに分布している。 ・用水路は、市内の東側で北部に多い。 ・p. 23 資料④を見ると、用水路が多いのは、標高が0 m以上の場所だとわかる。	[知技]ノート
(5) 水を生かした生活			
・調べる 海津市の人々は、豊かな水をどのように生活に生かしているのでしょうか。 p. 30	1/2	①資料①～⑥から、低い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 ・木曽三川公園で遊べる。 ・ヨットが楽しめる。 ・魚料理が楽しめる。 ・温泉や歴史民俗資料館もある。	[知技]ノート

(5) ノートにまとめる			
・まとめる 海津市の人々のくらしや産業におけるくふうについて、ノートにまとめましょう。 p. 31	1/2	①p. 31 のノート例のように、わかったことを考えて書く。 ・沼のような昔の田は、普通の田になっている。稲の生産が一番多い。 ・畑で生産するものも多い。 ・大きな排水機場による排水と、揚水機場と用水路による配水がある。 ・低い土地ならではの楽しみがある。	[思判表]まとめの文章

小単元名	3. 高い土地のくらし			教科書のページ	上 p. 32～39
配当時数	5 時間	活動時期	5 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで高い土地の自然などの様子や高い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、高い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	・国土の地形などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え表現している。 ・我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・高い土地のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 山のすそ野に広がる高原			
・つかむ 山に囲まれた高い土地の様子とそこに住む人々のくらしについて考え、学習問題をつくりましょう。 p.32～33	1	① 嬬恋村の航空写真を見て、土地の様子を話し合う。 ・ なだらかな斜面には畑のようなものが見える。 ・ 高原の奥には高い山がそびえている。 ② 嬬恋村と東京の月別平均気温を比べてわかったことを話し合う。 ・ 嬬恋村は 1 年を通して、東京よりも気温が低い。 ③ 嬬恋村の土地利用図を読み込んでわかったことや疑問を話し合う。 ・ キャベツ畑がある。多いのは、標高 1000m～1400m の範囲。 ・ どうして標高の高いところでキャベツをつくるのかな。 ④ p. 33 の本文と嬬恋高原キャベツマラソン大会の写真資料からわかることを読み取って発表する。 ・ 夏でも涼しいからマラソン大会ができるのかな。 ・ 面白い大会名だけど、そんなにキャベツがたくさん穫れるのかな。 ⑤ 学習問題をつくる。	[思判表] ノート、発言

		・ どうしてキャベツをつくるのかな。 ・ 東京よりも寒い気候でキャベツはできるのかな。 ・ 高い土地で生活するためにはどのような工夫をしているのかな。	
		学習問題 高い土地に住む人々のくらしや産業には、どのようなふうがあるのでしょうか。	
(2) 学習の進め方			
・ 学習問題をつくり，学習の進め方を確認しよう。 p. 24～25	1	①小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ②各学習過程には、「ふり返ろう」があることも確認する。 ・ 学習問題について，予想を立て，実際に見学したり，インターネットやガイドブック，写真や地図などで調査したりして，「高い土地に住む人々のくらしや産業」を調べる計画を立てる。 <調べること> ・ 高い土地に住む人々のくらしや産業 ・ それぞれ，どのようなふうがあるのか。 ・ 高い土地で生活する楽しみにはどのようなものがあるのか。 <調べ方> ・ 教科書を使って調べる。 ・ 教科書以外で調べる。(インターネット，パンフレット，市のホームページ，図書館，地図帳など) <まとめ方> ・ 調べてわかったこと，疑問に対する答えをノートにまとめる。 ・ わかった事実をもとに，考えたことをノートに書き分ける。	[思判表]ノート，発言
(3) あれ地を耕し広い畑に			
・ 調べる 孀恋村の人々は，どのようにして今のような土地にできたのでしょうか。 p. 34～35	1	①昔の孀恋村の写真を見て，孀恋村でキャベツの生産がさかんになった理由や歴史の流れについてわかったことを話合う。 ・ 孀恋村の周辺には 2000mを超える高い山がたくさんあり，それらの火山の噴火で火山灰	[知技]ノート

		が積もった土地だ。 ・火山灰のやせた土地でなかなか作物が育たなかった。 ・夏でも涼しい気候を生かした栽培方法が工夫されてキャベツづくりがさかんになった。 ・昭和の初め頃まで産業がほとんどなかった。 ・昭和10年ごろに国道が通って、交通が便利になった。	
(4) 夏に新鮮なキャベツをとどける			★他教科との関連：算数
・調べる 嬬恋村のキャベツづくりには、どのようにふうがあるのでしょうか。 p. 36～37	1	①p. 36～37 写真から、キャベツづくりの1年の様子で工夫していることをノートに書き出す。 ・予冷庫で冷やすことによって、鮮度を保ったまま、消費地にとどけることができる。 ②資料⑤「嬬恋村のキャベツごよみ」を関連づけて読む。 ・種まきをずらすことによって、春から秋まで長い期間、何回にも分けて出荷できる。 ③資料⑥「季節ごとのキャベツの産地」を見てわかったことをノートに書く。 ・夏秋キャベツは、半分が群馬県産で、群馬県は高原の涼しい気候を生かしてキャベツ栽培を行っていることがわかる。	[知技]ノート
(5) 自然のめぐみを生かす			
・調べる 嬬恋村の人々は、豊かな高原の自然を、どのように生活に生かしているのでしょうか。 p. 38	1/2	①写真資料から、高い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 ・冬は、スキーやスケートができる。 ・夏は、サイクリングや自転車レースができる。 ・地元で収穫されたキャベツが学校給食に出される。	[知技]ノート
(5) ノートにまとめる			
・まとめる 嬬恋村の人々のくらしや産業におけるくふうについて、ノートにまとめましょう。 p. 39	1/2	①p. 39のノート例のように、わかったことを考えて書く。 ・嬬恋村では、そこに住む人々が地形や気候に適応して生活している。 ・特に、高原野菜の生産や、季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かした生活をしている。	[思判表]ノート [態度]ノート

小単元名	4. 国土の気候の特色			教科書のページ	上 p. 42～47
配当時数	3 時間	活動時期	5 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や気候に特色ある地域の人々の生活を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の国土の気候の概要を理解している。
	思考・判断・表現	・国土の気候などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え表現している。 ・我が国の位置や気候から、我が国の国土の自然環境の特色を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・我が国の国土の気候について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 四季の変化がある日本の気候		★他教科との関連：理科	
・つかむ 日本の気候について考え、学習問題をつくりましょう。 p.42～43	1	①p. 42 の写真（長野県松本市）をもとに、身近な地域の四季の変化と比較しながら、気づいたことを発表し合う。 ・四季の様子。 ・つゆの時期や台風がくる時期がある。 ・日本のどこでも同じような変化が見られるのだろうか。 ②桜の咲き始める時期を示した日本列島の地図（資料②）や3月の各地の様子（資料③～⑥）を見せ、地域によっても気候が異なることに気づかせ、学習問題につなげる。 ・桜のさきはじめる時期は、場所によってちがう。 ・3月の沖縄と北海道では、あたたかさが大きく異なる。 ・つゆや台風の影響も、地域ごとに異なるのかな。	[思判表] ノート
		学習問題 日本の気候には、どのような特色が見られるのでしょうか。	

(2) つゆと台風, 季節風			
・調べる 日本のつゆや台風, 季節風には, どのような特色があるのでしょうか。 p. 44~45	1	①日本の気候を特色づけている梅雨(つゆ), 台風, 降雪に関わる景観写真を見て, どの季節のどこの写真か予想する。 ②p. 44 の資料[1]で, 7月と1月の平均降水量を比較をする。 《日本列島全体の特色》 ・日本列島全体では, 夏(7月)に降水量が多く, 冬(1月)は少ない。 《地域ごとの違い》 ・太平洋側は夏に降水量(雨)が多く, 日本海側は冬に降水量(雪)が多い。 ・北海道では夏でも雨が少ない地域がある。 ・沖縄は冬でも雨が多い。 ③資料[2]~[7]や本文から, 夏と冬の降雨量が異なる理由を確認する。 ・夏は, つゆや台風の影響で雨が多く降る。 ・雨は, 農業にとってめぐみの雨となるが, 台風などによって被害がでることがある。 ・特に太平洋側は季節風の影響で雨が多く降る。 ・冬は, 季節風の影響によって日本海側で雪が多く降る。	[知技]ノート
(3) 地域によってことなる気候			
・調べる 各地の気候には, どのような特色があるのでしょうか。 p. 46~47	1/2	①p. 46 資料[1]の気温と降水量のグラフや「まなび方コーナー」をもとに, グラフの読み取り方を学ぶ。 ②日本の気候を六つに区分した地図と, 各地の気温と降水量のグラフを見比べて考えたことを話し合う。 ・北(北海道)と南(沖縄)で気温が大きく異なる。 ・季節風の影響で, 太平洋側は夏に降水量(雨)が多く, 日本海側は冬に降水量(雪)が多い。 ・中央高地や瀬戸内海などの日本の内陸側の降水量は海側よりも少ない。 ・山地などの高いところでは, 気温が低くなる。	[知技]プリント
(3) ノートにまとめる			
・まとめる 日本の気候の特色についてまとめましょう。 p. 47	1/2	①日本の気候の特色と各地の気候に影響をあたえるものをキーワードであげ, 整理する。	[思判表]まとめの文章 [態度]ノート

		②キーワードを使い，考えたことをノートにまとめ，みんなで話し合う。	
--	--	-----------------------------------	--

小单元名	5. あたたかい土地の暮らし			教科書のページ	上 p. 48～55
配当時数	4 時間	活動時期	6 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小单元の目標		我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることであたたかい土地の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小单元の観点別評価規準	知識・技能	・国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、あたたかい土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	・国土の気候などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活について考え表現している。 ・我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・あたたかい土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 沖縄県の家や暮らしのくふう			
・つかむ 沖縄県の家や暮らしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 p.48～49	1	①写真を見ながら、自分たちのくらしている地域との違いを 発表し合う。 ・わたしたちの学校のプール開きは6月だよ。 ・3月はまだ長袖を着ているよね。 ②グラフを見て、沖縄県の気候の特色を話し合う。 ・1月でも気温が15度以上あるね。 ・雨がたくさん降るんだね。 ・台風が多いみたいだ。 ③沖縄の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんあるよ。 ・暑さや水不足に備えた工夫があるんだね。	[思判表]発言
		学習問題 沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。	
(2) あたたかい気候に合った農業			
・調べる 沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かしてどのような産業を営んでいるのでしょうか。 p. 50～51	1	①写真とグラフからさとうきび栽培について話し合う。 ・さとうきびの栽培がさかんだね。	[知技]発言

		・竹のような作物だね。 ・どうやって砂糖にするのかな。 ②製糖会社の話を読み、沖縄の自然環境にあったさとうきびについて話し合う。 ・さとうきびは沖縄の気候に合っているんだね。 ・沖縄の人々はさとうきび栽培を大切にしてきたんだね。 ③写真からパイナップル栽培について話し合う。 ・わたしたちの住んでいる地域ではパイナップルは作っていないね。 ・パイナップルはあたたかい国の作物だよ。 ④パイナップル農家の話や電照菊の栽培について読み、沖縄の自然環境に合った農業について話し合う。 ・沖縄の人々はあたたかい気候を生かした農業を工夫しているんだね。	
(3) あたたかい気候を生かした観光と沖縄の課題			
・調べる 沖縄では、あたたかい気候をどのように生かしているのでしょうか。 p. 52～53	1	①写真とグラフから沖縄の自然と観光について話し合う。 ・白い砂浜やさんごしょうがきれいだね。 ・プロ野球のキャンプも行われているんだね。 ・観光客が増えているね。 ②県庁の方の話を読んで、沖縄の観光について意見を発表し合う。 ・美しい自然やあたたかい気候を生かした観光を行っているんだね。 ・外国からの観光客を増やす工夫もしているね。 ③写真や米軍基地の話から沖縄の課題について意見を発表する。 ・美しいさんごしょうは温暖化などによって白くなってしまうんだね。 ・アメリカの軍用地が残されているね。	[知技]ノート
(4) 古くからの文化を守る			
・調べる 沖縄県の文化は、どのようなものなのでしょうか。 p. 54	1/2	①写真から沖縄の文化について気づいたことを発表し合う。 ・色鮮やかな建物や服装だね。 ・食べ物も特徴があるね。 ②沖縄の文化について調べる。 ・古くからアジアの国々と貿易	[知技]発言

		をしていたんだね。 ・南にある島だから，独自の文化が生まれたんだね。	
(4)表にまとめてキャッチコピーをつくる			
・まとめる あたたかい土地のくらしの特色を表にまとめ，キャッチコピーをつくりましょう。 p. 55	1/2	①沖縄の特色を表にまとめる。 ・これまでの学習を表にまとめてみよう。 ②学習したことをもとに，沖縄の特色を表すキャッチコピーを作る。 ・産業も文化も自然や気候と切り離せないね。	[思判表]キャッチコピー [態度] ノート

小単元名	5. 寒い土地の暮らし			教科書のページ	上 p. 56～63
配当時数	4 時間	活動時期	6 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで寒い土地の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	・国土の気候などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活について考え表現している。 ・我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・寒い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 北海道の家や暮らしのくふう			
・つかむ 北海道の暮らしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 p.56～57	1	①写真を見ながら、自分たちのくらししている地域との違いを発表し合う。 ・わたしたちの学校ではスキー学習はないね。 ・こんなに雪が積もっているんだね。 ②グラフを見て、北海道の気候の特色を話し合う。 ・1月などは0度を下回っているね。 ・冬の降水量も多いね。 ・雪が多いみたいだ。 ③北海道の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんあるよ。 ・寒さや雪に備えた工夫があるんだね。	[思判表]発言
		学習問題 北海道の人々は、雪や寒い気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。	

(2) 札幌市の雪対策と雪を生かした観光			
・調べる 札幌市に住む人々は、雪とともにどのような生活を営んでいるのでしょうか。 p. 58～59	1	①写真から雪対策について話し合う。 ・雪が山のようにつまれているね。 ・雪をとかす施設やためておく施設が市内にたくさんあるね。 ②雪対策室の人の話を読み、雪対策について話し合う。 ・人々の生活に影響が出ないように様々な工夫をしているんだね。 ③雪まつりの写真から、雪を生かした取り組みについて意見を発表し合う。 ・雪を使って楽しそうなことをしているね。 ・誰がこんな大きな雪像を作ったのかな。 ④グラフや市役所の方の話を読んで、雪の多さを生かした観光について話し合う。 ・北海道の人々は雪の多さを生かした観光を工夫しているんだね。	[知技]発言
(3) 十勝地方の自然を生かした農業			
・調べる 十勝地方の人々は、自然を生かしてどのような産業を行っているのでしょうか。 p. 60～61	1	①写真と図表から十勝地方の農業について話し合う。 ・とても広い農地だね。 ・たくさんの農産物ができそう。 ・何を作っているんだろう。 ②農家の方の話を呼んで、十勝地方の農業について意見を発表し合う。 ・広い土地を生かして農業をしているんだね。 ・病気を防ぐために輪作などの工夫もしているんだね。 ③①④の写真資料などと「まなび方コーナー」から農業の特色を話し合う。 ・道から道まで 545mの区画なんて想像できないほど広い畑だね。 ・広い土地だから大型の機械が使えるんだね。 ・こんな広い土地でじゃがいもを作っているんだね。	[知技]ノート
(4) 守ってきた文化を受けつぐ			
・調べる 北海道に伝わるアイヌの文化は、どのようなものでしょうか。 p. 62	1/2	①写真から北海道の文化について気づいたことを発表し合う。 ・特徴のある服装だね。	[知技]発言

		・食べ物も特徴があるね。 ②北海道の文化について調べる。 ・昔から先住民族のアイヌの人々が生活しているんだね。 ・本州やロシアと交流しながら独自の文化を作ってきたんだね。	
(4) 表にまとめてキャッチコピーをつくる			
・まとめる 寒い地方のくらしの特色を表にまとめ、キャッチコピーをつくりましょう。 p. 63	1/2	①北海道の特色を表にまとめる。 ・これまでの学習を表にまとめてみよう。 ②学習したことをもとに、北海道の特色を表すキャッチコピーを作る。 ・産業も文化も自然や気候と切り離せないね。	[思判表]キャッチコピー [態度]ノート

単元名	2. わたしたちの生活と食料生産（オリエンテーション）			教科書のページ	上 p. 66～67
配当時数	1 時間	活動時期	6 月	学習指導要領の内容	(2) アイ

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 給食の材料			
・わたしたちは、ふだん、どのようなものを食べているのでしょうか。 p. 66～67	1	①地域の名産品を使った全国の給食の写真を見比べて、わかったことや考えたことを発表し合う。 ・全国にはいろいろな給食がある。 ・名産品を使った給食はとてもおいしそう。 ・わたしたちの学校の給食にも、地域の名産品を使ったこんだてがある。 ・給食にはいろいろな材料が使われている。 ②学校の給食のこんだてを分類して、わかったことや考えたことを発表し合う。 ・みそしるの具の中に、地域の名産品がある。 ・給食のこんだては、米や豆、果物、水産物、野菜、畜産物に分類できる。 ・給食の材料は、地域だけでなく、全国各地より集められている。	[思判表]発言・ノート [態度]発言・ノート
めあて わたしたちが食べているものは、どこでどのようにつくられ、運ばれてきているのでしょうか。			

小単元名	1. 暮らしを支える食料生産			教科書のページ	上 p. 68～75
配当時数	4 時間	活動時期	6 月	学習指導要領の内容	(2) ア- (7) (ウ), イ- (7)

小単元の目標		我が国の農業や水産業における食料生産について、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の概要を捉え、食料生産が国民に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	- 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。 - 調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	- 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、食料生産の概要について考え表現している。 - 我が国の農産物や水産物の種類や生産量、農業や水産業が盛んな地域の分布などの情報を総合したり、農業や水産業における食料生産と国民生活を関連付けたりして食料生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の食料生産の概要について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 産地調べ			
・つかむ わたしたちが食べている食料品の産地について調べ、学習問題をつくりましょう。 p. 68～69	1	①スーパーマーケットのちらしから食料品を切り取り、都道府県ごとに地図に貼り付けて、気づいたことや考えたことを発表し合う。 - 米は主に寒いところで生産されている。 - 野菜は、わたしたちが生活しているところに近いところで生産されている。 - みかんは主にあたたかいところで、りんごは主に寒いところで生産されている。 - 北海道の魚もある。 - 外国から来た食料品もたくさんある。 - 全国各地から集まった食料品を、わたしたちはふだん食べている。	[思判表] 発言・白地図
		学習問題 わたしたちの暮らしを支えている食べ物の産地は、どのように広がっているのでしょうか。	

(2) 日本の米づくり		★他教科との関連：算数	
・調べる 米の主な産地はどこでしょうか。 p. 70～71	1	①日本各地の6月の米づくりの様子がわかる写真や、米の収穫量に関わる地図から、米の生産地について、気づいたことや考えたことを発表し合う。 ・気候のちがいによって、米づくりの進め方が異なる。 ・米は主に寒いところでたくさんつくられている。 ・米はあたたかいところでもつくられている。 ・もっとも多く米をつくっている地方は、東北地方である。	[知技]発言・ノート
(3) 農産物の産地			
・調べる 野菜、果物、畜産の産地はどのように広がっているのでしょうか。 p. 72～73	1	①日本の農産物の生産額の変化や、野菜、果物、畜産物の主な産地と特色を調べ、わかったことや考えたことを発表し合う。 ・米の生産額は減っている。 ・畜産物や野菜の生産額は増えている。 ・野菜の産地は、関東地方が多い。 ・りんごは寒いところ、みかんはあたたかいところに多い。 ・畜産物の産地は、北海道と九州地方に多い。 ・野菜、果物、畜産物の生産量の高い地域は、それぞれ異なっている。 ・野菜、果物、畜産物は、日本各地で生産されている。	[知技]発言・ノート
(4)地図にまとめる			
・まとめる わたしたちが食べている食べ物の主な産地はどのようなところか、まとめましょう。 p. 74～75	1	①これまで学習してきたことをもとにして、わたしたちが食べている食料品を生産している主な産地についてまとめる。 ・米は、東北地方や北海道、新潟県で生産がさかん。 ・野菜は、気候などの自然の特色をいかして、全国各地で生産されている。 ・果物は、りんごは寒いところ、みかんはあたたかいところ、気候のちがいによって、産地が大きく異なる。 ・畜産物は、牧草をつくる広い土地が必要なので、北海道や九州地方が主な産地になっている。 ・水産物の水あげ量は、千葉県の水産物が第一位である。	[思判表]発言・ノート [態度]発言・ノート

小単元名	2. 米づくりのさかんな地域			教科書のページ	上 p. 76～93
配当時数	8 時間	活動時期	7 月	学習指導要領の内容	(2) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の米の生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料で調べ、まとめることで、米づくりに関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の米づくりに関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	- 米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、米づくりに関わる人々の工夫や努力を理解している。 - 調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の米づくりに関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。
	思考・判断・表現	- 米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだし、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 - 米づくりの仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて米づくりに関わる人々の働きを考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の米の生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 庄内平野をながめて、地形と気候の特色		★他教科との関連：家庭	
・つかむ 庄内平野はどのようなところなのでしょう。 p. 76～79	1	①庄内平野の航空写真を見て、気づいたことや、景観の特色についてわかったことを発表し合う。 ・平らな土地が広がっている。 ・水田がたくさんある。 ・川が流れている。 ・山がある。 ・家や道路がある。 ・庄内平野に多くの水田があって、米づくりがさかんであることは、自然の特色と関係があるのではないかな。 ②土地利用図や雨温図、写真などを読み取ることを通して、庄内平野の地形と気候の特色について話し合う。 ・庄内平野は東西に約 16km もある。 ・庄内平野の多くは、水田に利用されている。 ・大きな川が庄内平野を流れている。 ・庄内平野の海岸沿いには防砂林があって、砂浜の砂が飛ぶ	[思判表] 発言・ノート

		ことを食い止めている。 ・酒田市は宮古市と比べ、冬に降水量が多く、夏の平均気温が高い。これが米づくりに適した気候となっている。 ・庄内平野は夏になると南東からの季節風がふき、稲の病気を防いでいる。	
(2) 米づくりのさかんな庄内平野			
・つかむ 写真やグラフを見て、庄内平野の米づくりについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 80～81	1	①写真やグラフを読み取り、わかったことや疑問に思ったことから学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・庄内平野の水田はとても大きい。 ・他の地域と比べて、庄内地方の水田の占める割合は大きい。 ・庄内平野のある山形県では、10aあたりの米の生産量が他県と比べて高い。 ・庄内平野は、日本有数の米づくりのさかんな地域と言える。 ・庄内平野の米づくりには、農家のさまざまな工夫や努力があるのではないかな。	[思判表]発言・ノート
		学習問題 庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのようにふうや努力をして、よりよい米を生産しているのでしょうか。	
(3) 柊津さんの米づくり			
・調べる 農家の人々は、米づくりをどのように進めているのでしょうか。 p. 82～83	1	①専業農家である柊津さんの話やインターネットなどを活用して、農家の米づくりの仕事について調べ、農作業暦にまとめる。 ・米づくりは、3月の種もみを選ぶところから始まっている。 ・3月から10月まで、一年間を通して、農家は米づくりを行っている。 ・農家は一人で米づくりを進めているわけではなく、地域の人と協力しながら、米づくりを行っている。	[知技]発言・ノート
(4) 生産性を高める米づくりのくふう			
・調べる 農家の人々は、米の生産性を高めるためにどのようにくふうをしてきたのでしょうか。 p. 84～85	1	①庄内平野の農家が、生産性を高め、よりよい米づくりを進めるためにどのような工夫をしてきたかを調べ、米づくりの移り変わりについて話し合う。 ・米づくりに欠かせない水の量	[知技]発言・ノート

		を上手に調整するために、庄内平野の水田にはさまざまな工夫がある。 ・耕地整理を進め、庄内平野の生産性は高まってきた。 ・農家の労働時間を短縮するために、田おこしなどの機械化が進んだ。	
(5) 庄内平野の米づくりを支える人たち			
・調べる 農家の人々を、だれがどのように支えているのでしょうか。 p. 86～87	1	①農業協同組合や水田農業試験場などが、どのように農家を支援しているかを調べて、わかったことを発表し合う。 ・米づくりを進める上で、農業協同組合の人々の協力は欠かせない。 ・農家を支える人々が協力することで、安全でおいしい米づくりは進められる。 ・水田農業試験場では、品種改良や有機農業の研究をして、農家を支えている。 ・「つや姫」や「雪若丸」という新しい品種が開発され、庄内平野の米づくりはどんどん発展している。	[知技]発言・ノート
(6) おいしい米を全国に			
・調べる 庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられるのでしょうか。 p. 88～89	1	①庄内平野の米が消費者に届けられるまでの様子を調べて、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きや、米づくりにかかる費用などについて考えたことを話し合う。 ・カントリーエレベーターに保管された米は、農業協同組合の計画にしたがって、全国各地へ出荷される。 ・米の輸送には、輸送先となる消費地との距離に応じて、フェリーやトラックなどが使い分けられている。 ・米がわたしたちの手元に届くまでには、米づくりにかかる費用の他に、輸送や販売にかかる費用があり、それらを含めて、米の価格は決められる。 ・米の購入方法には、農家から直接購入する方法もある。	[知技]発言・ノート
(7) 米づくり農家のかかえる課題と新しい取り組み			
・調べる 農家の人々がかかえる課題を、どのように解決しようとしているのでしょうか。 p. 90～91	1	①農家の抱える課題について資料から読み取り、これからの米づくりについて自分が考えたことを伝え合う。 ・米の他に大豆などを栽培して、	[知技]発言・ノート

		農家は生産調整をしている。 ・米の生産量が減っているのは、米の消費量が減っていることと関係がある。 ・農作業の共同化は、農業従事者の減少と関係がある。 ・庄内平野の農家は、消費者との結びつきを深めるために、関東地方の小学校で出前授業を行っている。 ・農家は、環境にやさしい肥料づくりを進めている。 ・種もみの直まきに挑戦している農家もいる。	
(8) これまでの学習をふり返る			
・まとめる これまでの学習をふり返り、米づくりがさかんな地域の人々のくふうや努力についてまとめましょう。 p. 92～93	1	①これまでに調べたことをふり返って、表にまとめる。 ・内容、問い、わかったことの三つの観点を関連づけて、調べてきたさまざまなことをまとめる。 ・「庄内平野はどのようなところなのでしょう。」という問いから、庄内平野の地形や気候の内容を学び、庄内平野の地形の特色や気候の特色を理解した。 ・「庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられるのでしょうか」という問いから、米を消費者にとどける方法を学び、輸送のしくみや費用を理解した。	[思判表] 発言・ノート [態度] 発言・ノート

小单元名	2. 水産業のさかんな地域			教科書のページ	上 p. 96～109
配当時数	7 時間	活動時期	9 月	学習指導要領の内容	(2) ア-①(ウ), イ-①

小单元の目標		我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料で調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小单元の観点別評価規準	知識・技能	- 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 - 調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。
	思考・判断・表現	- 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだし、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 - 水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	水産業における食料生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 魚を消費する日本			
・つかむ わたしたちの食生活と水産業について考え、学習問題をつくりましょう。 p.96～97	1	①日本の水産業の様子について、地図や統計資料等を読み取る活動を通して、わかったことや疑問に思ったことを整理して学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・スーパーマーケットでは、いろいろな魚が売られている。 ・日本のまわりの海では、いろいろな魚介類が多く採れる。 ・日本の一人当たりの魚や貝の消費量は世界でも非常に多い。 ・日本は、魚を多く食べるのに、魚をとる量は、減っている。	[思判表]発言
		学習問題 長崎で水産業にかかわっている人々は、どのように魚をとり、消費者にとどけているのでしょうか。	
(2) 魚を集めてとるまきあみ漁			
・調べる 長崎漁港の近海でさかな沖合漁業は、どのように行われているのでしょうか。 p. 98～99	1	①写真やイラストから、まきあみ漁についてわかったことをノートにまとめ発表する。 ・船団を組んでまきあみ漁を行っている。 ・照明をつけているから、夜に	[知技]発言・ノート

		漁をしているのかな。 ・働いている人は、水にぬれないように合羽を着ている。 ・魚群探知機で魚を探したり、船の上からスマートフォンで情報を漁港に送ったりしている。 ・とれる魚の量は、天候や魚の群れのいる場所など自然環境に影響される。	
(3) 長崎漁港から食卓へ			
・調べる 長崎漁港に水あげされた魚は、どのようにしてわたしたちの食卓へとどくのでしょうか。 p. 100～101	1	①写真を見て、長崎漁港の様子や水あげされた魚が食卓にとどくまでの流れについてわかったことをノートにまとめる。 ・水あげ……とった魚が長崎漁港に水あげされる。魚は、種類や大きさごとに分けられる。 ・せり……魚市場でせりにかけられ、値段と買う人が決められる。せりおとした魚を売りたい人に売る。 ・トラックで運ぶ……せりおとされた魚は県内の店だけでなく、トラックに積み込まれ東京や大阪、福岡などに運ばれて売られる。魚は、他県の魚市場でもう一度せりにかけられたり、店やスーパーマーケットで売られたりする。 ・新鮮な魚を出荷するために保冷機能のついたトラックで出荷される。 ②魚が運ばれる道を道路地図で確認する。 ・長崎から、高速道路で全国に運ぶことができる。 ・東京で買う魚の値段には、どのような費用が含まれているのだろう。	[知技]発言・ノート
(4) つくり育てる漁業			
・調べる つくり育てる漁業は、どのように行われているのでしょうか。 p. 102～103	1	①写真と養殖業者の人の話から、とらふぐの養殖の様子、工夫や努力についてわかったことをノートにまとめる。 ・稚魚が成魚になって出荷されるまでに約1年半かかる。 ・ほかの魚をきずつけないように、歯切りという作業を1ぴきずつ行う。 ・台風や赤潮などの被害にも気をつけなくてははいけない。	[知技]ノート

		・生産が安定しているので地元 の若い人が養殖業をやるよう になってきている。 ②イラストと写真から魚や貝の たまごを育てている水産セン ターについてわかったことを ノートにまとめる。 ・魚や貝のたまごを育てるだけ でなく、病気への対応なども 行っている。 ・かぎられた水産資源を守り、 安定して魚がとれるように研 究している。	
(5) すり身からかまぼこをつくる			
・調べる 長崎漁港の周辺では、ど のようにして水産加工品がつく られているのでしょうか。 p. 104～105	1	①写真とかまぼこ工場の人の話 から、かまぼこづくりについ てわかったことをノートにま とめ、発表する。 ・漁港の近くには、いわしやあ じなどの魚からすり身をつく る工場がある。 ・新鮮な魚を使ってすり身がつ くられている。 ・かまぼこ工場では、すり身を さらに加工してかまぼこやち くわなどをつくっている。 ・若い人たちにもかまぼこを知 ってもらおうと「長崎かんぼ こ王国」などを作って宣伝し ている。	[知技]ノート
(6) 日本の水産業がかかえている課題			
・調べる 日本の水産業には、どの ような課題があるのでしょうか。 p. 106～107	1	①地図とグラフから、日本の水 産業の様子について読み取 り、わかったことをノートに まとめる。 ・世界の海ではそれぞれの国が 魚をとってよい範囲が決めら れている。 ・日本の遠洋漁業・沖合漁業の 生産量はどんどん減ってきて いる。 ・水産物の輸入は増えてきてい る。 ・漁業で働く人の数も減ってき ている。 ・わたしたちがこれからも同じ ように魚を食べていくために は、どうすればよいのだろう。	[知技]ノート
(7) プレゼンテーションソフトを使ってまとめる			
・まとめる 水産業がさかんな地域 の人たちのくふうや努力につい て調べたことをまとめてみま しょう。 p. 108～109	1	①学習したことをふり返り、プ レゼンテーションソフトを使 ってまとめる。 ・日本は豊富な水産資源に恵ま れている。	[思判表]発言・プレゼン テーション [態度]発言・プレゼンテ ーション

		・長崎漁港のまわりでは、まきあみ漁がさかんである。 ・スマートフォンや魚群探知機なども活用して情報を早く得ることができるようにしている。 ・長崎漁港のまわりには、とった魚をすり身にする工場やかまぼこ工場がある。 ・養殖やさいばい漁業など魚をつくり育てる漁業もある。 ②まとめた作品をもとにこれからの漁業について考えたことを発表し合う。 ・漁業で働く人が増えてほしい。 ・漁業はこれからもっと機械化が進むのではないか。	
--	--	---	--

小単元名	4. これからの食料生産とわたしたち			教科書のページ	上 p. 114～123
配当時数	5 時間	活動時期	9～10 月	学習指導要領の内容	(2)ア-(7)(ウ), イ-(7)

小単元の目標		我が国の農業や水産業における食料生産について、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の課題を捉え、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるようにするとともに、学習したことを基にこれからの農業などの発展について考えようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。
	思考・判断・表現	・食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、問いを見いだし、食料生産の課題について考え表現している。 ・食料自給率と食生活の変化を関連づけたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業などの発展について考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 日本の食料生産をめぐる課題			
・つかむ 食料生産の課題について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 114～115	1	①農業や水産業の学習をふり返り、どのような課題があったか話し合う。 ・水産業ではとれる魚が少なくなり、輸入しているものもあった。 ・米の生産量と消費量が減っていた。 ・農業も水産業も働く人が減っていた。 ②日本と主な国の食料自給率について調べ、疑問に思うことを話し合い、学習問題を作る。 ・日本の食料の多くは輸入にたよっている。 ・小麦や大豆のほとんどを輸入している。 ・40 年前に比べ、自給率が約 3 分の 2 に減ったのはなぜだろう。 ・日本の食料生産にはどのような	[思判表]発言

		な課題があるのだろう。	
		学習問題 日本の食料生産にはどのような課題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいのでしょうか。	
(2)わたしたちの食生活の変化と食料生産			
・調べる 食生活の変化は食料生産にどのようなえいきょうをあたえているのでしょうか。 p. 116～117	1	①教科書 p. 116 の写真を見ながら、毎日の食生活について話し合う。 ・わたしは朝はパンを食べることが多い。 ・ハンバーグやカレーなど、肉を使った食べ物が多い。 ②食生活の変化や食料品別の輸入量の変化を資料で調べる。 ・1960 年度と比べると米の消費量が減り、肉やその加工品、乳製品などの畜産物が増えている。 ・増えている食料品の多くは輸入に頼っている。 ③調べたことを関連づけ、食生活の変化が食料生産や食料の確保にどのような影響を与えているか考え、話し合う。 ・食生活が変化し、小麦や乳製品などがたくさん輸入されるようになった。 ・食生活は豊かになったが、自給率の高い米の消費が減り、輸入食料品が増え、自給率が下がっている。 ・食料廃棄の多さも問題になっている。	[思判表]ノート
(3) 食の安全・安心への取り組み			
・調べる 食の安全・安心に対する取り組みは、どのように行われているのでしょうか。 p. 118～119	1	①食の安全・安心に対する取り組みについて知っていること、輸入食品で問題になること等を話し合う。 ・生産者の顔が見える野菜などがスーパーマーケットで売られている。 ・農業の学習では、農薬を使わない工夫などもあった。 ・外国ではどのような農薬を使っているのか心配。 ・気候の影響により、輸入国で農産物が収穫できなかったら、輸入ができない。 ②スーパーマーケットの店長さんの話と検疫所で働く長さんの話をもとに、食の安全・安心のためにどのような取り組	[知技]ノート

		みがあるか調べる。 ・トレーサビリティ ・日本の法律に合格した食品を輸入する。 ・検疫所での点検 ③調べたことをもとに、食の安全・安心に対する取り組みがどのように行われているか考え、話し合う。 ・トレーサビリティの取り組みや輸入食品の衛生管理が行われている。 ・しかし、輸入のための輸送では、たくさんの石油が使われている。	
(4) 食料を安定して確保する			
・調べる 食料を安定して確保し続けるためには、どのようなことが大切なのでしょうか。 p. 120	1/2	①「産業別の人口のわりあいの変化」及び「土地利用の変化」のグラフから、食料の安定確保にとって課題になることを話し合う。 ・農業や林業、水産業などで働く人が減っている。 ・畑や田の面積も減っている。 ・食料生産を行う人や場所が減っている。 ②農業協同組合の後藤さんの話をもとに、食料を安定して確保するために大切なことを調べ、考えたことを話し合う。 ・国内の食料自給率を上げるために国産のものを食べることが大切。 ・自分の住んでいる地域でとれるものを食べることも大切。 ・自分の地域で作られているものを食べると、輸送のために大量の燃料を使わなくて済む。	[知技]ノート
(4) これからの食料生産について考える			
・まとめる これからの食料生産について調べたことをもとに、学習問題に対する考えをまとめましょう。 p. 121	1/2	①これまでに調べたことを、カードに書いて黒板に貼り、分類をする。 ・日本の食料生産がかかえる課題 ・食の安全・安心の取り組み ・食料を安定して確保するために大切なこと ②分類したカードを見ながら、これからの食料生産で大切だと思うことを発表し合う。 ・日本の食料自給率を上げることが大切。 ・食料自給率が上がると、農業	[思判表]ノート

		や水産業が活発になる。 ・市で進めている地産地消の取り組みにも進んで参加することが大切。 ・むだなく食べることも大切。 ・日本は輸入食料品が多い。食の安全・安心にも気を付けることが大切。 ③話し合ったことをもとに、これからの日本の食料生産について大切に思うことを各自ノートにまとめる。	
(5)食料生産の新たな取り組み			
・いかす 新しい食料生産のくふうをしようかいし合い、これからの食料生産について考えましょう。 p. 122～123	1	① p. 122～123 で紹介されている食料生産の新たな取り組みについて、グループ内で分担して調べ、発表し合う。 ・生産、加工、販売を自分たちで行う取り組み ・えさを工夫して畜産物の価値を高める取り組み ・持続可能な漁業を進める取り組み ・有機減農薬農法による米づくりの取り組み ②自分たちの県や市の農業や水産業の新たな取り組みについて、ホームページ等を利用して調べる。 ③これからの食料生産に対する考えをノートに文章でまとめる。 ・消費者は、安さや安全だけでなく、価値のあるものや高級なものも求めている。 ・生産から販売までを行う取り組みがある。 ・消費者の願いに応えながら、新しい取り組みが行われている。	[態度]発言 [思判表]ノート

単元名	3.わたしたちの生活と工業生産(オリエンテーション)			教科書のページ	下 p.2～3
配当時数	1 時間	活動時期	10 月	学習指導要領の内容	(3)アイ

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) わたしたちの生活を取りまく工業製品			
・工業は、わたしたちの生活に、どのようにかかわっているのでしょうか。 p.2～3	1	①身のまわりの工業製品について、気づいたことを話し合う。 ・家に、冷蔵庫や電子レンジなどの電化製品がある。 ・ノートやパソコンなど学校で使うものにも工業製品があるのではないかな。 ②これまでの学習をふり返ったり、身のまわりの工業製品について考えたりしながら、工業製品と生活とのかかわりについて話し合う。 ・3年の昔の道具の学習では、洗濯機ができて便利になったことを学習した。 ・身のまわりの工業製品は、どのようにつくられているのかな。	[思判表]ノート、発言
		めあて わたしたちの生活を支える工業製品は、どのようにしてつくられているのでしょうか。	

小単元名	1. 暮らしを支える工業生産			教科書のページ	下 p.4～9
配当時数	3 時間	活動時期	10 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(ア)(エ), イ-(ア)

小単元の目標		我が国の工業生産について、工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の概要を捉え、工業生産と国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	- 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の概要を理解している。 - 調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	- 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、問いを見だし、工業生産の概要について考え表現している。 - 我が国の工業の種類や生産額、工業生産が盛んな地域の分布などの情報を総合して工業生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	工業生産の概要について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) わたしたちの生活に役立つ工業製品			
・つかむ 身のまわりにある工業製品について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.4	1/2	①身のまわりの工業製品を持ち寄り、それぞれの特徴を考えながら分類する。 - 機械もあれば、食べ物もある。 - 金属（鉄など）でできたものもあれば、プラスチックでできたものもある。 - 繊維（衣類など）でできたものもあれば、紙や陶器でできたものもある。 - いろいろな種類の製品があるけれど、どこでつくっているのだろうか。	[思判表]発言、分類表
		学習問題 わたしたちの生活を支えている工業製品は、どこでつくられているのでしょうか。	
		②学習計画を立てる。 - 工業製品の種類や、どこで生産されているか調べたい。 - 日本ではどんな種類の工業がさかんなのか調べたい。 - 工業生産がさかんな地域は日	

		本のどのあたりにあるのか調べたい。	
(1) 日本各地の工場で作られている工業製品			
・調べる 身のまわりの工業製品は、どこで作られているのでしょうか。 p.5	1/2	①分類した工業製品が作られた場所を調べて、発表し合うとともに、日本地図に印をつけてまとめる。 - 写真の船は、広島県呉市で作られた。 - 音楽室にあるピアノは、静岡県掛川市で作られた。 - 家で使っている掃除機は、茨城県日立市で作られた。	[知技]ノート
(2) 日本の工業生産の特色			★他教科との関連:算数
・調べる 日本の工業生産には、どのような特色があるのでしょうか。 p.6~7	1	①「工業種類別の工業生産額のわりあいの変化」「大工場と中小工場のわりあい」の二つのグラフを読み取り、日本の工業生産について気づいたことを話し合う。 - 日本の工場はほとんどが中小工場だ。 - 大工場数は少ないが、工業生産額では半分以上を占めている。 1935年のグラフでは繊維工業の生産額の割合が大きいですが、現在は機械工業が中心。 ②「日本の工業生産の分布」のグラフを読み取り、日本の工業生産のさかんな地域について話し合う。 - 工業がさかんな地域は、太平洋側の海沿いに広がっている。 - 最も生産額が高い中京工業地帯では、主に何が作られているのだろう。	[知技]ノート
(3) 工業のさかんな地域の分布と特色			
・調べる 日本で工業がさかんな地域には、どのような特色があるのでしょうか。 p.8	1/2	①教科書p.7「日本の工業生産の分布」のグラフを復習しながら、「太平洋ベルト」とよばれている工業地域や工業地帯の広がりを意識する。 - 太平洋ベルトの工業生産額は、日本全体の2分の1以上を占めている。 ②工業地域や工業地帯の相互のつながりや海外とのつながりにも発展させて思考を深めていく。 - 工業のさかんな地域が海沿いに多いのは、材料や製品の輸送に便利だからではないか。 - 高速道路が全国に広がって、内陸でも工業がさかんな地域が増えてきた。	[知技]ノート

(3)ノートにまとめる			
・まとめる 日本の工業のさかんな地域の特色をまとめましょう。 p.9	1/2	①日本の工業生産と工業のさかんな地域の特色について、わかったことや考えたことをノートにまとめ、話し合う。 <工業生産の特色> ・昔は繊維工業がさかんだったが、現在は機械工業の割合が多い。 ・工場数は、ほとんどを中小工場が占めている。一方、生産額では、半分以上を大工場が占めている。 <工業のさかんな地域> ・太平洋の海沿いに工業のさかんな地域が多く広がり、太平洋ベルトとよばれている。 ・高速道路の発達にともない、関東内陸工業地域など、内陸部にも工業のさかんな地域がある。	[思判表]発言・ノート [態度]発言・ノート

小単元名	2. 自動車をつくる工業			教科書のページ	下 p.10～23
配当時数	7 時間	活動時期	10 月～11 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(イ)(エ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の自動車生産について、製造の行程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・ 自動車の製造の行程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ・ 調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解している。
	思考・判断・表現	・ 自動車の製造の行程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見だし、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ・ 自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・ 自動車生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 変わってきた自動車		★他教科との関連：算数	
・ つかむ わたしたちの生活や産業を支える自動車は、どのような地域でつくられているのでしょうか。 p.10～11	1	①写真とグラフから、自動車の変化について、考えを発表し合う。 ・ 時代とともに自動車は変化しているね。 ・ わたしたちの生活や要望によって変わるのかな。 ・ 乗用車も 80%くらい普及しているね。 ②地図を見て気づいたことを発表する。 ・ 豊田市に自動車工場が多いね。 ・ 関連工場も集まっているよ。 ・ どんなどころで組み立てているのかな。	[思判表]発言
(2) さかんな自動車工業			
・ つかむ 日本の自動車工業がさかんな理由を考え、学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 p.12～13	1	①写真とグラフから、日本の産業にとって自動車工業が重要であることを考える。 ・ 大きな工場だね。 ・ 日本の工業のうち機械工業の生産額が一番大きいね。	[思判表]ノート

		・機械工業の中でも、半分近くが自動車工業だね。 ②「まなび方コーナー」をみて学習計画を立てる。 ・どうやって生産されているのかな。 ・関連工場の役割はなんだろう。 ・時代にあった自動車はどうやって開発されるのかな。	
		学習問題 自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのようなくふうや努力をしているのでしょうか。	
(3) 自動車を組み立てる工場			
・調べる 組み立て工場働く人々は、どのように自動車をつくっているのでしょうか。 p.14～15	1	①写真から、自動車を組み立てる流れを知り、工夫を話合う。 ・消費者の注文に合わせて、違う種類の自動車を、一つの組み立てラインで組み立てているんだね。 ・間違えないように指示ビラなどの工夫があるね。 ・部品を余らせないようにしたり、事故の起こらないようにしたりする工夫がたくさんあるね。 ②工場の方の話を読み、組み立てについてまとめる。 ・ロボットや機械の特徴を生かして、素早くたくさんの自動車を生産しているんだね。	[知技]ノート
(4) 自動車の部品をつくる工場			
・調べる 自動車の各部品は、どのようにつくられているのでしょうか。 p.16～17	1	①図と写真から、自動車の部品をつくる工場の働きを発表する。 ・一台の自動車を生産するにはたくさんの部品が必要なんだね。 ・部品は関連工場を組み立てられているね。 ・組み立て工場のまわりにはたくさんの関連工場がある理由がわかるね。 ②シート工場の方の話を读んだり、組み立て工場と関連工場のつながりの図を見たりして、組み立て工場の工夫と役割を話合う。	[知技]ノート

		・シートを組み立てるにもたくさんの部品が必要なんだね。 ・シートを組み立てるための部品をつくる工場もあるんだね。 ・組み立て工場と部品工場が全体で一つの大きな工場になっているんだね。	
(5)世界とつながる自動車			
・調べる 完成した自動車は、どのようにして世界じゅうの消費者にとどけられるのでしょうか。 p.18～19	1	①写真と図から、生産された自動車はどのように消費者に届けられるのか発表する。 ・船やトラックで運ばれていくんだね。 ・工場から遠くの販売店や海外へは船で運ばれるんだね。 ・船には一度に何千台もつめるんだね。 ②自動車会社の方の話から、海外生産について意見を述べよう。 ・海外生産は年々増えているね。 ・現地の工場と日本の工場で交流して、高い品質を保っているんだね。 ・現地で生産することでその国の産業を発展させるんだね。	[知技]ノート
(6)人々の願いに合わせた自動車開発			
・まとめる 新しい自動車は、どのようにして生み出されているのでしょうか。 p.20～21	1	①これからの時代に合わせた自動車について話し合う。 ・環境にやさしい自動車が求められると思う。 ・事故が防げる自動車が大切だと思う。 ・車いすに乗ったまま移動できる車はどうか。 ②自動車開発をする方の話を読み、消費者や社会の要望に応える自動車開発についてまとめる。 ・自動車会社はどのような自動車が求められているのか常に考えているんだね。	[知技]ノート
(7)新聞にまとめる			★他教科との関連：国語
・まとめる これまでの学習をふり返り、日本の自動車づくりのよさを新聞にまとめましょう。 p.22～23	1	①これまでの学習を振り返り、自動車生産の工夫について意見を述べる。 ・組み立て工場では、ラインで作業をしたり、ロボットを使ったりとたくさんの工夫があ	[思判表]新聞 [態度]新聞

		りました。 ・自動車をつくるにはたくさんの部品が必要で，組み立て工場と関連工場が協力していました。 ・日本の自動車は海外でも販売されていました。 ・消費者や時代に合わせた自動車を開発していました。 ②例をもとに新聞をつくる。	
--	--	--	--

小单元名	3. 工業生産を支える輸送と貿易			教科書のページ	下 p.36～45
配当時数	5 時間	活動時期	11 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(ウ)(エ), イ-(ウ)

小单元の目標		我が国の工業生産について、交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小单元の観点別評価規準	知識・技能	・交通網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。 ・調べたことを白地図や文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	・交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、貿易や運輸の様子について考え表現している。 ・工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて貿易や運輸が工業生産に果たす役割を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・工業生産における貿易や運輸について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 工業製品の輸送と日本の貿易			
・つかむ 日本の輸送や貿易について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.36～37	1	①自動車工業の学習を振り返り、輸送との関わりを話し合う。 ・部品は関連工場で作られ、組み立て工場に運ばれる。 ・自動車はトラックや船で運ばれる。 ・空輸される工業製品もあるのではないかな。 ②工業にかかわる貿易について話し合い、輸送との関連をもとに学習問題をつくる。 ・工業地帯にある港で輸出入が行われているようだ。 ・空港の貿易額も多い。	[思判表]発言
		学習問題 輸送や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのでしょうか。	
(2) 全国へ運ばれる工業製品			
・調べる 工場で作られた工業製品は、どのように運ばれているのでしょうか。 p.38～39	1	①「京浜トラックターミナルのまわり」の地図や「日本の主な交通もう」などから、工業生産における輸送手段を調べる。 ・トラックターミナルの周辺に	[知技]ノート

		は様々な交通手段がある。 ・トラックターミナルに来た工業製品は、様々な交通手段を組み合わせで運ばれる。 ②工業生産における輸送の役割を話し合う。 ・輸送する場所や量によって交通手段を使い分けたり組み合わせたりしている。 ・運輸は、各地に工業製品を運ぶなど、重要な役割を果たしている。	
(3) 日本の輸入の特色			
・調べる 日本の輸入には、どのような特色があるのでしょうか。 p.40～41	1	①「主な輸入品の輸入相手国」「輸入量と国内生産量のわりあい」などから、日本が輸入している品目と相手国を調べる。 ・オーストラリアやサウジアラビアをはじめ、世界中から輸入している。 ・石油や石炭、天然ガス、鉄鉱石など燃料や原料を輸入している。 ②「主な輸入品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに、日本の輸入の特色を話し合う。 ・アジア地域で生産された、安くて品質のよい工業製品が輸入されている。 ・機械類の割合が高まっている。	[知技]ノート
(4) 日本の輸出の特色			
・調べる 日本の輸出には、どのような特色があるのでしょうか。 p.42～43	1	①「主な輸出品の輸出相手国」「輸出される機械類」などから日本が輸出している品目と相手国を調べる。 ・自動車、鉄鋼、集積回路など高い技術に支えられた製品が輸出されている。 ・アメリカや中国をはじめとして世界中に輸出している。 ②「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに、日本の輸出の特色を話し合う。 ・1970年代からは機械類が多くなった。 ・輸出製品は海外での生産に使われている。 ・現地生産も多くなっている。	[知技]ノート
(5) これからの社会に向けて			
・調べる 原料や資源の多くを輸入している日本では、どのような取り組みが進んでいるのでしょうか。 p.44	1/2	①「主な風力発電所などの分布」などから、原料や資源を輸入に頼っている状況での日本の取り組みを調べる。 ・再生可能エネルギーの開発が	[知技]ノート

		広がっている。 ・世界との結びつきを大切にす る。	
(5) かるたにまとめる			
・まとめる 工業を支える運輸や貿易について、かるたにまとめましょう。 p.45	1/2	①これまでの学習を振り返り、「運輸」「貿易」と「日本の工業生産」との関わりを話し合う。 ・資源が少ない日本は、貿易で原材料を確保している。 ・運輸の働きが全国に広がっているから、輸入した原材料や生産した工業製品を各地で使うことができる。 ②工業生産における「運輸」「貿易」について重要だと思ったことをかるたに表現する。 ・「貿易で、材料・製品支え合い」。日本は原材料を輸入し、製品を輸出することで工業製品が成り立っている。	[思判表]ワークシート [態度]ノート

小単元名	4. これからの工業生産とわたしたち			教科書のページ	下 p.46～55
配当時数	5 時間	活動時期	11 月～12 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(ア)(エ), イ-(ア)

小単元の目標		我が国の工業生産について、伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の課題を捉え、工業生産の発展と国民生活との関連を考え、表現することを通して、原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえつつ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解できるようにするとともに、学習したことを基にこれからの工業の発展について考えようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・ 伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の課題を理解している。 ・ 調べたことを図表や文などにまとめ、原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえつつ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解している。
	思考・判断・表現	・ 伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、問いを見だし、工業生産の課題について考え表現している。 ・ 工業生産について学習してきたことを総合して工業生産の課題について考え、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・ これからの工業生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・ 学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 日本の工業生産の特色			
・ つかむ 日本の工業生産の特色について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.46～47	1	①「自動車工業」や「輸送と貿易」の学習、「いろいろな工業の生産額で大工場・中小工場がしめるわりあい」のグラフなどをもとに、日本の工業の特色について話し合い、学習問題をつくる。 ・ 大きな工場で効率よく組み立てていた。 ・ 部品は関連工場で作られていた。 ・ 繊維工業や食料品工業をはじめ中小工場の生産額が多い。 ・ 鯖江市はめがねづくりがさかんなようだ。 ・ 中小工場には特色があるのではないか。	[思判表]ノート
		学習問題 日本の工業生産は、すぐれた技術をどのように生かし、発展していこうとしているのでしょうか。	

(2) 昔から伝わる工業生産			
・調べる 北陸地方の工場では、昔から伝わる技術をどのように工業生産に生かしているのでしょうか。 p.48～49	1	①「めがね協会の小松原さんの話」「伝統を生かした北陸の工業」などから北陸地方の工業生産を調べ、伝統的な技術をどのように生かしているのかを話し合う。 ・100年以上前、めがねづくりの技術が定着した。 ・めがね枠の国内生産の90%以上が福井県で鯖江はその中心となる産地。 ・産地ブランドをつくっている。 ・高岡銅器や輪島塗など、専門的な優れた技術を職人が受け継いでいる。	[知技]ノート
(3) 高い技術をほこる工場が集まる大田区			
・調べる ものづくりのまち大田区がほこる技術は、どのようなものなのでしょうか。 p.50～51	1	①「北嶋さんの話」「田中さんの話」などから大田区での工業生産を調べ、他地域との違いについて話し合う。 ・北嶋さんたちは「しぼり」という技術でロケットの先端などをつくっている。 ・世界でも大田区でしかできない「オンリーワン」の製品をつくっている。 ・田中さんたちは、近くの工場どうしで協力して高い品質の製品をつくっている。	[知技]ノート
(4) 日本の工業生産の課題			
・調べる 日本の工業生産には、どのような課題があるのでしょうか。 p.52～53	1	①「製造業で働く人口の変化」のグラフや「輸送と貿易」での学習などから、日本の工業生産の課題について話し合う。 ・原材料や燃料を輸入に頼っているので、資源の確保を考える必要がある。 ・製造業の人口が減っているので、国内生産ができなくなるのではないか。 ・輸入品によって国産品に影響が出てしまう。 ②「活やくするロボット」「海外に輸出された日本企業の鉄道」などから、課題に対する取り組みを調べる。 ・人口減少の中、ロボットが開発されている。 ・環境への配慮や品質の高い製品を海外に輸出している。 ・持続可能な社会に向けた工業生産が求められている。	[知技]ノート

(5)話し合ってノートにまとめる			
・まとめる 日本の工業生産についての学習をふり返り，これからの工業生産についてまとめましょう。 p.54	1/2	①これまでの学習を振り返って，これからの工業生産に必要なことを話し合い，学習問題について考えたことをノートに書く。 ・(例) 日本の工業は高い技術があるので，困っている人を助ける製品づくりが日本の工業の発展につながる。	[知技]ノート [思判表]ノート
(5)これからの工業生産に大切なこと			
・いかす これからの日本の工業生産のために，大切だと思うことを話し合しましょう。 p.55	1/2	①これからの工業生産のために大切なことについて，ランキング形式で表現し話し合う。 ・(例)「製品づくりの資源を確保すること」が最も大切。資源を確保しないことには日本の工業生産は何も行うことができなくなる。 ・(例)「さまざまな人の生活を支える製品づくり」が最も大切。社会の課題を解決するような製品づくりによって信頼が高まる。	[思判表]ワークシート [態度]ワークシート

単元名	4.情報化した社会と産業の発展(オリエンテーション)			教科書のページ	下 p.56～57
配当時数	1 時間	活動時期	12 月	学習指導要領の内容	(4)アイ

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) わたしたちをとりまく情報			
・わたしたちは、どのような情報とどのようにかかわっているのでしょうか。 p.56～57	1	①どのような情報をどのように得ているのか発表し合う。 ・他地域や外国のニュースはテレビやラジオ，新聞で知る。 ・天気はインターネットを使うことが多い。 ・趣味のことは雑誌が多い。 ②情報を得る手段と情報の内容との関わりを話し合う。 ・インターネットは外でも調べられる。 ・テレビは家族で一緒に見られ，すぐに知ることができる。	[思判表]ノート，発言
		めあて わたしたちの生活の中で，情報はどのような役わりを果たしているのでしょうか。	

小単元名	1. 情報産業とわたしたちの暮らし			教科書のページ	下 p.58～69
配当時数	6 時間	活動時期	12 月	学習指導要領の内容	(4)ア-(ア)ウ, イ-(ア)

小単元の目標		我が国の産業と情報との関わりについて、放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、まとめることで放送などの情報産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送などの情報産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	- 放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送などの情報産業の様子を理解している。 - 調べたことを図表や文などにまとめ、放送などの情報産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。
	思考・判断・表現	- 放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見いだし、放送などの情報産業の様子について考え表現している。 - 放送局などから発信される情報と自分たちの生活に関連付けて、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えたりして表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	- 放送などの産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 - 学習したことを基に情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) テレビから伝えられる情報			
つかむ ニュース番組では、どのような情報が放送されているのでしょうか。 p.58～59	1	①よく見るテレビ番組について発表し合う。 ・毎朝天気予報を見て、傘が必要か考える。 ・スポーツや音楽番組 ・ニュース番組 ②ニュース番組を視聴し、情報の種類や放送内容について話し合う。 ・全国各地の様々な出来事がその日のうちに放送されている。 ・外国のことも放送されている。 ・スポーツや天気予報は最後の方に放送されている。	[思判表]ノート

(2) ニュース番組をつくる現場			
・つかむ 番組をつくる放送局について、疑問を出し合って学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 p.60～61	1	①ニュース番組の放送について疑問を出し合い学習問題をつくる。 ・どのように情報を集めているのか。 ・出来事をどのように選んでいるのか。 ・内容によって放送時間の長さが違うのはなぜか。	[思判表]発言
		学習問題 放送局の人々は、どのようにしてわたしたちに情報をとどけているのでしょうか。	
		②予想を出し合い、学習計画を立てる。 ＜調べること＞ ・どのように情報を集めているのか。 ・集めた情報をどのようにして伝えているのか。 ・番組を見る人は、どのように情報を活用するとよいか。	
(3) ニュース番組をつくるための情報収集			
・調べる 放送局は、1本のニュース番組をつくるために、どのように情報を集めているのでしょうか。 p.62～63	1	①放送局のホームページや「ニュース番組をつくる佐藤さんの話」などから情報の集め方を調べ、工夫や努力を話し合う。 ・多くの時間と人で番組はつくられている。 ・取材したり映像を撮ったりしている。 ・外国からも人工衛星やインターネットを通して毎日たくさんのニュースが届く。 ・正確で詳しい情報を得るようにしている。 ・人権や公平、公正などに配慮し、見る人が求める情報を考えている。	[知技]ノート
(4) 集めた情報を番組にしてとどける			
・調べる 放送局は、集めた情報をどのようにまとめ、ニュース番組にして放送しているのでしょうか。 p.64～65	1	①「映像を編集する武山さんの話」「アナウンサーの高畑さんの話」「ニュース番組編集長の金子さんの話」などからニュース番組の放送の仕方について調べ、工夫や努力を話し合う。 ・映像の中でいちばん大切なところや見る人が求めているものを考えている。 ・自分が伝える情報が役に立つよう、落ち着いてゆっくり話すようにしている。 ・常に、どの情報を放送するのかをその場で判断している。	[知技]ノート

(5)情報を上手に生かす			
・調べる テレビ放送では、どのような情報が放送され、どのようなえいきょうがあるのでしょうか。 p.66～67	1	①テレビ番組の種類や「熊本地震のボランティア活動」,「放送局編集長の林さんの話」などから放送された情報の活用や影響を調べ、人々と情報との関わりについて話し合う。 ・おもちゃのコマーシャルが放送される。 ・政見放送を見て投票先を決める。 ・被災地のニュースでボランティアが集まった。 ・送り手の考えによって内容が変わる。 ・受け手の立場で考えて放送している。	[知技]ノート
(6)フローチャートにまとめて話し合う			
・まとめる 放送局がわたしたちに情報をとどけるまでの働きをフローチャートにまとめ、話し合しましょう。 p.68～69	1	①学習したことをフローチャートにまとめる。 ・正確さや詳しさ、人権や公平、公正さを考えつつ、見る人が求める情報となるように工夫して集めている。 ・番組を見る人が求めている情報を選ぶとともに、見る人が情報を役立てられるように伝え方を工夫して放送している。 ・テレビなどの情報は、人々の行動を決めるきっかけとなったり、報道被害や社会の混乱を起こしたりすることがあるので、影響を考えることなどが必要。 ②ニュース番組での情報について話し合い、自分の考えをノートにまとめる。 ・放送局の工夫や努力によって、自分たちは生活に役立つような情報を得ることができている。情報にはよさだけでなく、報道被害や社会の混乱を引き起こすこともあるので、自分でしっかりと情報の影響を考えて行動したい。	[思判表]ワークシート [態度]ノート

小单元名	2. 情報を生かす産業			教科書のページ	下 p.74～83
配当時間	5 時間	活動時期	1 月	学習指導要領の内容	(4)ア-(イ)(ウ), イ-(イ)

小单元の目標		我が国の産業と情報との関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べ、まとめることで産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を多角的に考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとする。
小单元の観点別評価規準	知識・技能	- 情報の種類、情報の活用の仕方などについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状を理解している。 - 調べたことを図表や文などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。
	思考・判断・表現	- 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見だし、産業における情報活用の現状について考え表現している。 - 情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	- 大量の情報や情報通信技術の活用について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 - 学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 暮らしを支える産業と情報の活用			
つかむ 暮らしを支える産業の情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.74～75	1	①暮らしを支える産業では、情報をどのように活用しているか話し合う。 ・電車やバスなど、人を運ぶ運輸の仕事では、ICカードなどを利用している。 ・農業用水をスマートフォンで管理している。 ・漁業では漁船からスマートフォンでとれた魚の情報を漁港に送っていた。 ②販売の仕事ではどのように情報を活用しているか、写真資料を参考に話し合う。 ・レジでは、バーコードを機械で読み込むと値段が表示されるしくみになっている。 ・ポイントカードで支払いもできる。 ③話し合ったことをもとに疑問	[思判表]発言

		に思うことを出し合い、学習問題をつくる。 ・いつも品物がそろっているのは、情報を活用しているからなのだろうか。 ・ポイントカードは、どのように利用されているのだろうか。	
		学習問題 はん売の仕事をするコンビニエンスストアでは、どのような情報を何のために活用しているのでしょうか。	
(2) 情報を活用してはん売する			
・調べる コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用してはん売の仕事をしているのでしょうか。 p.76～77	1	①コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか話し合い、教科書p. 76, 77の資料をもとに調べる。 ・レジからいつどんな商品が売れたか本部に情報が送られている。 ・お店では、翌日の天気や地域の行事などの情報も活用して商品を発注している。 ・ポイントカードで買い物をすると、性別や年齢などの情報も本部に送られる。 ・本部では、集めた情報を使って、新しい商品の開発を行っている。 ②コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか考え話し合う。 ・コンビニエンスストアの情報は、本部に送られ、大量の情報になっている。 ・本部では、売れた商品のほかに、買った人の情報も集め、新しい商品の開発に生かしている。 ・それぞれのお店でも、天気や地域の行事などの情報を活用している。	[知技]ノート
(3) 情報を生かしてものを運ぶ			
・調べる はん売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用しているのでしょうか。 p.78～79	1	①コンビニエンスストアに商品が運ばれるときにどのように情報が活用されているか話し合い、p. 78資料① ②をもとに調べる。 ・店からタブレットを使って本部や工場に情報が送られている。 ・本部ではトラックがどこを走っているかがわかり、災害の時は本部から指示がだせるようになっている。 ②人々の願いに応えるための情報を生かした工夫をp. 79 ③ ④の資料などから調べる。	[知技]ノート

		・お年寄りや子育て中の方は、インターネットを利用して商品をお店から届けてもらうこともできる。 ③販売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用しているか考え、話し合う。 ・お店から情報が本部や工場に送られ、商品が届けられている。 ・カーナビゲーションを利用して、トラックの場所がわかるので、災害時にも商品が届けられる。 ・お年寄りや子育て中の方も、情報を活用して商品が届けられるしくみがある。	
(4)情報の活用によるサービスの広がり			
・調べる はん売の仕事では、情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているのでしょうか。 p.80～81	1	①コンビニでは、情報通信機器がどのように活用されているのか話し合い、p. 81[3]の資料などから調べる。 ・コンサートやスポーツの試合のチケットを買える。 ・バスのチケットも買える。 ・市役所などで発行する証明もとることができるものがある。 ②販売の仕事では、情報通信機器を活用し、どのようにサービスを広げているのか考え、話し合う。 ・お店の商品を買うだけでなく、情報通信機器を使って、いろいろなサービスを受けられる。 ・情報通信機器を使って、他の産業ともつながることで、わたしたちはいっそう便利になっている。	[知技]ノート
(5)関係図にまとめる			
・まとめる はん売の仕事をするコンビニエンスストアでの情報活用について、関係図にまとめましょう。 p.82～83	1	①これまでの学習を振り返り、コンビニエンスストアがどのように情報を活用しているか話し合う。 ・売れた商品と同時に、買ったお客さんの情報を集めて、新しい商品を開発していた。 ・カーナビゲーションを活用して、配送トラックの位置がいつでもわかるしくみになっていた。 ・お店でも売れた商品の情報や地域の行事、天候などの情報を活用していた。 ・情報通信技術を活用して、ほかの産業ともつながってサービスを広げている。	[思判表]関係図 [態度]発言

		②コンビニエンスストアでの情報活用について，関係図にまとめ，発表し合う。 ・集めた情報を販売の仕事に生かすという工夫と，情報通信技術を生かしてほかの産業とつながり，サービスを広げるという工夫があった。 ・情報を活用することで販売の仕事が発展し，そのことでわたしたちの生活も便利になっている。	
--	--	---	--

小单元名	3. 情報を生かすわたしたち			教科書のページ	下 p.90～97
配当時間	4 時間	活動時期	1 月	学習指導要領の内容	(4)ア-(イ)(ウ), イ-(イ)

小单元の目標		情報活用のあり方について、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、各種の資料で調べ、まとめることで情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用の仕方を捉え、情報が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小单元の観点別評価規準	知識・技能	- 情報の種類、情報の活用の仕方などについて、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用の仕方を理解している。 - 調べたことを図表や文などにまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解している。
	思考・判断・表現	- 情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見だし、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用の仕方について考え表現している。 - 学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	情報活用のあり方について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) あふれる情報			
つかむ 日ごろの情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.90～91	1	①パソコンやスマートフォンの利用経験を話し合う。 - メールを送ったり、電車の時刻を調べたりした。 - インターネットを利用して調べ学習をした。 - インターネットを利用して買い物をした。 ②インターネットでできることや普及率を調べ、どのようなことが問題になるか話し合い、学習問題をつくる。 - ルールやマナーを知らないで使うと、トラブルに巻き込まれることがある。	[思判表]発言
		学習問題 わたしたちは、情報とどのようにしてかかわっていったらよいのでしょうか。	
(2) 情報活用のルールやマナー			
調べる 情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいのでしょうか。 p.92～93	1	①p. 92 ① ② ③のインターネットを利用した犯罪件数のグラフや犯罪を伝える新聞記事の資料をもとに、その原因を話し合う。	[知技]ノート

		・パソコンや携帯電話が普及したと関係があるのではないかな。 ・インターネットは、お互いの顔を合わせなくても情報のやり取りができるからではないかな。 ②インターネットで起こる問題を調べ、情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいか考え話し合う。 <問題の例> ・SNSに書き込んだ個人情報の流出。 ・個人情報が盗まれる。 ・代金を払ったが商品が届かなかった。 <ルールやマナーの例> ・インターネットを使うと多くの情報が得られるが、中には有害なものや正しくないものもあることを理解して利用する。 ・インターネット上に流れた情報は止めることができないので、十分注意が必要。	
(3) 調べ学習とインターネット			
・調べる 情報を学習に生かすには、どのようにすればよいのでしょうか。 p.94～95	1	①インターネットを利用した調べ学習で困ったり、迷ったりした経験を話し合う。 ・たくさんの情報があってどれを選べばよいかわかったことがある。 ・集めた情報をそのまま使ってよいのかわからなかった。 ・メールで質問したいときはどうすればよいのかわからなかった。 ②メディアリテラシーの意味を知り、情報を集めるときや、情報を読み取るときに大切なことを考え、話し合う。 ・必要な情報かどうかを見極め、情報を選んで受け取る。 ・メールで質問するときは、相手の名前とあいさつを書き、教えてほしい内容をわかりやすく書く。 ・情報をそのまま書き写さず、自分の言葉に置き換えてまとめる。 ・発表の時は、参考にした資料や本の名前、作者、発行元、発行年などを書いておく。	[知技]ノート

(4)情報の活用について話し合う			
・まとめる 情報をどのように活用し、生かしていったらよいかまとめましょう。 p.96	1/2	①今まで、情報の活用について学んできたことを振り返り、話し合う。 ・情報化した社会では情報がくらしや産業に役立っている。 ・インターネットの情報は便利に活用できるが、すべて正しいとは限らない。 ・インターネットによるいじめや犯罪が問題になっている。 ②情報をどのように活用し、生かしていったらよいか考え、話し合う。 ・インターネットを正しく使うために、メディアリテラシーを身に付けることが大切。 ・情報の活用には、「情報モラル」というルールやマナーが大切。	[思判表]ノート
(4)情報活用宣言			
・いかす わたしたちの情報モラルを見直し、情報活用宣言をつくりましょう。 p.97	1/2	①これまでの学習をもとに、自分たちの情報モラルを振り返り、注意しなければならないことをグループで話し合い、クイズをつくる。 ・個人情報を入力する場合、相手を確認めることや余計なことを書かないことが大切。 ・SNSで発信するとき、友達のことを書き込んだり、個人情報を発信したりしない。 ②グループごとに作成したクイズを相互に発表し合い、情報を活用するうえで大切だと思うことを整理して「情報活用宣言」を書く。 ・常に、個人情報の扱いに注意する。 ・必要な情報はきちんと確かめて使う。 ・SNSでいたずら書きや悪口を書いたり、個人情報を載せたりしない。	[思判表]情報活用宣言 [態度]情報活用宣言

単元名	5.わたしたちの生活と環境(オリエンテーション)			教科書のページ	下 p.98～99
配当時数	1 時間	活動時期	2 月	学習指導要領の内容	(5)アイ

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 自然環境とかかわっていく大切さ			
・わたしたちの生活は、どのような自然環境に囲まれているのでしょうか。 p.98～99	1	①わたしたちの生活と自然環境とのかかわりについて話し合う。 ・国土の学習で、地形や気候の特色を学習した。 ・世界自然遺産に一度行ってみたい。日本には、美しい自然環境が残されているところが多くある。 ・趣味のことは雑誌が多い。 ②p. 98～99の資料を見ながら、豊かな自然環境や環境が悪化する問題について考える。 ・木を植えているのはどうしてだろう。 ・空がきれいになったのはどうしてだろう。 ・自然環境とどのようにかかわっていくのがよいのだろう。	[思判表]ノート，発言
		めあて 国土の自然環境は、わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。	

小单元名	1. 自然災害を防ぐ			教科書のページ	下 p.100～111
配当時数	5 時間	活動時期	2 月	学習指導要領の内容	(5)ア-(ア)(エ), イ-(ア)

小单元の目標		我が国の国土の自然環境と国民生活について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
小单元の観点別評価規準	知識・技能	・災害の種類や発生、位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ・調べたことを白地図や図表などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。
	思考・判断・表現	・災害の種類や発生、位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見いだし、国土の自然災害の状況について考え表現している。 ・我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・自然災害について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 自然災害が多い日本の国土			
・つかむ 日本で起きる自然災害について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.100～103	1	①p. 102～103の日本の災害地図を見ながら、資料①～⑩の災害が起きた場所を確認する。 ②同時に、p. 102の災害年表を見ながら、資料①～⑩の災害が起きた場所を確認する。 ・地震や津波はどのようなところで起きるのかな。 ・高い土地や低い土地、あたたかい気候や寒い気候など、日本の様々な地形や気候の地域について学んできたから、自然災害も地形や気候と関係があると思う。 ・自然災害に対して、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているのかな。	[思判表]ノート・発言
		学習問題 自然災害は地形や気候とどのようなかわりがあり、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているのでしょうか。	

(2) 地震災害への取り組み			
・調べる 地震はどのようなところで起こり、被害を減らすためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。 p.104～105	1	①日本で地震が多いわけを、本文や、資料③「断層で起きる地震」から、読み取って話し合う。 ・複数のプレートの出会う場所にあるから。 ・内陸には断層が多いから。 ②大地震に備えて、国ではどのような対策や備えをしているか、資料④～⑦やことば「緊急地震速報」などから、読み取って話し合う。 ・学校や県庁では、耐震工事を進めています。 ・気象庁では、緊急地震速報を流して、大きな揺れが来る前に、自分の身を守るようにしています。 ・中央防災会議や国土交通省の災害対策本部では、地震の前触れがないかを話し合ったり、地震が起きたときの対策を話し合ったりします。	[知技]ノート・発言
(3) 津波災害への取り組み			
・調べる 津波災害はどのようなときに起こり、被害を減らすためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。 p.106～107	1	①日本で津波が起きるわけを、本文や、資料③④から読み取って話し合う。 ・プレートの出会う場所では大きなひずみがたまって地震が起きると津波が発生する。 ・津波は陸地に到達するとさらに高くなる。 ②大津波からの被害を減らすために、各都道府県ではどのような取り組みをしているのか、資料⑤～⑧からわかったことを話し合う。 ・防潮堤を建設している。 ・避難タワーを建設している。 ・防災訓練をしている。 ・昔から、津波がここまで来たという「津波記念碑」が残されている。 ③昔から、津波がここまで来たという「津波記念碑」が残されているが、濱口梧陵のように津波の被害を減らそうと努力した人もいたことを、p. 107 右下コラムからとらえる。	[知技]ノート

(4)風水害への取り組み		★他教科との関連：理科	
・調べる 風水害はどのようなときに起こり、被害を減らすためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。 p.108～109	1	①日本では風水害の被害が大きくなる理由について、資料①②と本文から考え、話し合う。 ・日本は、つゆがあり台風がよく来る場所にあるから。 ・短時間に急な大雨が降ることがあると、水があふれる。 ・日本の国土は山がちなこととも関係がある。 ②風水害からの被害を減らすために、各都道府県ではどのような取り組みをしているのか、資料④～⑦からわかったことを話し合う。 ・砂防ダムで一度に川の上流の土砂が流れ出るのを防いでいる。 ・地下に放水路をつくって、川の水があふれないようにしている。 ・防災ステーションをつくって、水防活動の拠点にしている。 ・ハザードマップをつくって、洪水時に浸水が予想される箇所を地図に示して、避難時に役立ててもらう。	[知技]ノート
(5)火山の噴火や大雪への取り組み			
・調べる 火山や大雪による被害を減らすために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 p.110	1/2	①資料①～④から、火山や大雪への取り組みについてわかったことを話し合う。 ・火山の噴火に備えて、気象庁では常に観測している火山がある。 ・大雪に備えて、雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。 ・大雪に備えて道路の凍結を防ぐなどの対策もしている。	[知技]ノート
(5)ノートにまとめる			
・まとめる 自然災害と国土とのかかわりや、防災の取り組みについて学習したことをノートにまとめましょう。 p.111	1/2	①「まとめる」ページの課題をノートに写して、わかったことを考えて書く。 ・大津波からの被害を減らすために、各都道府県では、防潮堤や避難タワーを建設しているほかに、防災訓練をしている。 ・日本は、つゆがあり台風がよく来る場所にあるから風水害の被害が大きくなりがちである。だから、砂防ダム、放水	[思判表]ノート [態度]ノート

		路，ハザードマップなどの多様な対策を各都道府県は行っている。 ・火山の噴火に備えて，気象庁では常に観測している。また，大雪に備えて雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。	
--	--	---	--

小単元名	2. わたしたちの生活と森林			教科書のページ	下 p.112～123
配当時間	6 時間	活動時期	2 月～3 月	学習指導要領の内容	(5)ア-(イ)(エ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	- 森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。 - 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	- 森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見だし、国土の環境について考え表現している。 - 我が国の国土における森林の分布と国民の生活舞台である国土の保全を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	- 森林資源の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 - 学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 日本の森林			
つかむ 日本の森林は、どのようなになっているのでしょうか。 p.112～113	1	①森林の様子の写真やグラフ資料から、日本には森林が多くあることを調べる。 - 日本の総面積に対して約3分の2が森林になっている。世界各国と比べても森林の多い国である。 - 都市や産業のない所には森林が多い。 - 森林が少ないと土砂くずれがおきやすい。	[思判表]発言
(2) 森林とのかかわり			
つかむ 森林とわたしたちのくらしのかかわりを話し合っって学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 p.114～115	1	①森林の様子を写真やグラフから見て、気づいたことや森林にはどのような働きがあるか話し合う。 - 森林は天然林と人工林に分けることができ、天然林の方が面積が多い。 - 天然林と人工林で、働きに違いはあるのだろうか。 - 森林はどのような働きをして	[思判表]発言

		いるのだろうか。 学習問題 森林にはどのような働きがあり、わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。 ②学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・森林はどのように守っているのか。 ・防砂林などくらしを守る働きについて。 ・林業について。 ・木材など森林資源について。	
(3)貴重な天然林・白神山地			
・調べる 白神山地では、どのような森林の働きがあるのでしょうか。 p.116～117	1	①地図帳で白神山地の位置や広さなどについて調べ、写真資料をもとに山地の様子を具体的に調べる。 ・青森県から秋田県にかけて広がる、ぶなの天然林が広がる山地。 ・ぶなの天然林のすばらしさが認められて世界遺産にも登録されている。 ②森林の役割や天然林を守ることの大切さについて調べ、発表し合う。 ・観光地にもなっている。 ・動物たちが生きる場でもある。 ・赤石川のきれいな水は、白神山地から流れている。 ・森林ときれいな川を守るために努力している人々がいる。	[知技]ノート・発言
(4)木材をつくり出す森林			
・調べる 林業で働く人は、どのように森林を利用しているのでしょうか。 p.118～119	1	①白神山地に近い秋田県の人工林について調べ、人々の工夫や努力についてわかったことをノートにまとめる。 ・秋田杉は、主に住宅用の木材として使われている。 ・植えた木が大きく育ち、よい木材となるまでには長い年月がかかる。 ・間ばつなどの手入れをすることが大切である。 ・木のくずも燃料として使っている。 ・林業で働く人が減っているのが心配だ。	[知技]ノート
(5)さまざまな森林の働き			
・調べる 森林には、どのような働きがあり、森林資源はどのように利用されているのでしょうか。 p.120～121	1	①森林の働きやその大切さについて話し合い、木材の活用や自分たちの生活とのつながりについてまとめる。 ・森林は、生き物にとって大切な場所である。	[知技]ノート

		・木材を活用することによって林業がさかんになる。 ・秋田杉を使った伝統的工芸品もある。 ・防雪林は雪から鉄道を守っている。	
(6)守っていききたい森林			
・まとめる 森林の働きについてまとめ、環境を守ることについて考えてみましょう。 p.122～123	1	①これまで森林について学習してきたことをノートにまとめ、自分の考えを発表し合う。 ・森林には、資源としての働きや自然災害を減らす働きがある。 ・白神山地のような天然林を守っていききたい。 ・わたしたちが木を使った製品を積極的に使えば、人工林が増え、林業がさかんになるのではないか。 ②小単元を振り返り、森林を守っていくために自分たちにできることを話し合う。	[思判表]ノート・発表 [態度]ノート・発表

小単元名	3. 環境を守るわたしたち			教科書のページ	下 p.124～133
配当時間	5 時間	活動時期	3 月	学習指導要領の内容	(5)ア-(ウ) (エ), イ-(ウ)

小単元の目標		我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとする。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	・公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取組を理解している。 ・調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。
	思考・判断・表現	・公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、問いを見いだし、国土の環境について考え表現している。 ・公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを考えたり、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・公害防止の取組について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 - 学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 豊かな水資源をもつ京都市			
・つかむ 鴨川の変化について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.124～125	1	①鴨川と京都市民との関わりを調べる。 ・鴨川の豊かな水が生活やゆばづくりなどの産業を支えている。 ・現在は、いこいの場として親しまれている。 ②現在と過去の鴨川の様子を比べて、疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・なぜ昔は汚れていたのか。 ・どのようにしてきれいにしたのか。 ・だれがきれいにしたのか。	[思判表]ノート
		学習問題 鴨川は、だれがどのようにしてきれいな川にしているのでしょうか。	
		③学習計画を立てる。 ・昔鴨川がよごれていた原因。	

		・よごれていた鴨川をきれいにした取り組み。 ・美しい鴨川を守るための取り組み。	
(2) 生活が便利になる一方で			
・調べる なぜ鴨川はよごれていたのでしょうか。 p.126～127	1	①当時の新聞記事や「市役所の大原さんの話」、「公害にかかわる苦情・ちん情」(地図)などから、当時の社会の様子を調べ、汚れの原因について話し合う。 ・生活排水や工場排水によって汚れた。 ・産業の発展で生活が便利になる一方、環境を考えない人が多かった。	[知技]ノート
(3) 美しい鴨川を取りもどすために			
・調べる 全国的に公害が広がったころ、京都市では、鴨川をきれいにするために、どのような取り組みが行われたのでしょうか。 p.128～129	1	①年表や「市役所の大原さんの話」、「友禅あらい職人の澁谷さんの話」などから、環境をよくするための取り組みについて調べ、話し合う。 ・国は法律を整えた。 ・県や市は、下水道を整えたり工場排水を規制したりした。 ・工場の人たちは県や市のルールに協力し、工場を移転したり排水で汚したりしないように工夫した。	[知技]ノート
(4) 取りもどした環境を守るために			
・調べる きれいになった鴨川を守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 p.130～131	1	①「鴨川を美しくする会の杉江さんの話」や「京都府鴨川条例」などから現在の取り組みを調べ、環境を維持する様子について話し合う。 ・杉江さんは市民が川に親しむイベントを行うことで、環境を守る気持ちをもってもらえるようにしている。 ・杉江さんたち市民の活動によって県が条例をつくり、さらに環境が守られるようにしている。	[知技]ノート
(5) つながりを考えて話し合う			
・まとめる 鴨川を守るための取り組みをそれぞれの立場でまとめ、話し合います。 p.132～133	1	①学習したことを関連図にまとめる。 ・京都府や京都市は、下水道を整備したり工場排水の規制を行ったりした。また鴨川条例もつくった。 ・友禅あらい職人さんたちは、川を汚さないような生産の工夫をして、府や市の取り組みに協力した。 ・鴨川を美しくする会(市民)は、イベントを行うなど、人々が環境を守る意識を高められ	[思判表]関連図・ノート [態度]関連図・ノート

		る工夫を行っている。 ②自分だったら、だれのどの活動に協力できるか話し合う。 ・市民主催のイベントに協力できる。 ・職人さんが環境に配慮していることをみんなに伝えることで、協力できる。 ・府や市に対して、下水道を正しく使うことで、協力できる。 ③小単元を振り返る。 ・産業の発展や生活の向上の裏には、人々の行動によって、環境を悪化させてしまうことがある。一人一人が環境への意識をもって取り組むことが大切だ。	
--	--	--	--

本時のめあて	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1)ことなる立場から考えよう			
・ いかす 自然を守りながら，人が生活をしていくためには，どのようなことを大切にしなければならぬのでしょうか。 p.138～139	1	①川をめぐる問題について，異なる二つの立場の意見をそれぞれ「よさ」「問題点」に分けて表にまとめ，自分の意見を書く。 <Aさんたちの意見> よさ ・川底をコンクリートで整備すると，洪水になりにくい。災害の心配が減る。 ・親水公園を川のまわりに建設して，みんなの憩いの場にすることができる。 問題点 ・川が環境が変わってしまう。 <Bさんたちの意見> よさ ・洪水の際の避難計画を考えることで，川の自然の姿をそのまま守ることができる。 問題点 ・災害が起こった際に，被害が大きくなる心配がある。 ②AさんたちとBさんたちの意見の違いから，自然に対する二つの考え方があることを整理し，自然を守りながら人々が生活していくためにはどのようなことが大切か，自分の考えを書く。	[思判表] 表・ノート [態度] 表・ノート